

## 行政視察報告書

2019年7月4日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 天野 喜一郎 ① 議員 大月 隆司 ①  
議員 大本 益之 ① 議員 田口 忠義 ①

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

### 記

#### 【視察案件】

1. 青森県 今別町 「認定農業者や新規就農者」について
2. 青森県 つがる市 「市立図書館(イオン内)」について
3. 北海道 木古内町 「観光コンシェルジュの取り組み」について

【視察期日】 2019年6月26日～6月28日(2泊3日)

【視察コース】 笠岡駅 ⇒ 伊丹空港 ⇒ 青森空港 ⇒ 今別町 ⇒ つがる市  
⇒ 青森港 ⇒ 函館港 ⇒ 木古内町 ⇒ 新青森駅 ⇒ 青森空港  
⇒ 伊丹空港 ⇒ 笠岡駅

【視察内容】 以下、視察案件ごとに報告

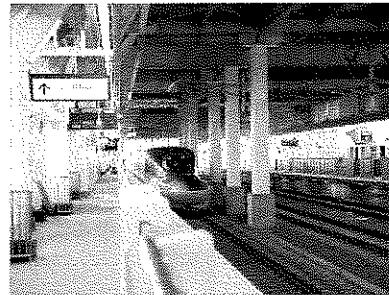
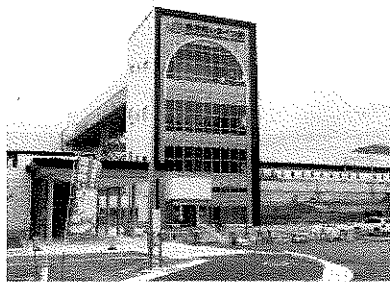
【1】青森県 今別町

住 所	〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字 166
電 話	0174-35-2001
視察案件	「認定農業者や新規就農者」について
期 日	2019年 6月 26日 (水) 15時30分から16時30分まで
応 対 者	教育長 勝野 義彦 様 総務課長 嶋中 拓実 様 産業観光課長 山田 基 様
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	今別町役場

**I. 町の概要**

1. 人口 2,800人 高齢化率 50%
2. 面積 125km<sup>2</sup>
3. 産業 農業(米・カボチャ他)・漁業(サケ養殖・昆布・ワカメ他)
4. 議員 6人

※2016年3月北海道新幹線の停車駅「奥津軽いまべつ駅」(1日30人程度の乗降)  
新幹線駅は最低50km区間に駅を設置、新青森駅や北海道の駅との中間点



**II. 認定農業者や新規就農者**

概 要

1. 視察目的

本市も農業者が年々減少傾向であることから認定農業者や新規就農者制度について研究した。

2. 認定農業者の目的

認定農業者制度は、農業・農村を発展されるために、農業を職業として選択して、やりがいのあるものとし、意欲と能力のあるプロの農業者を育成していく。

<制度内容>

農業経営の改善を計画的に図ろうとする個人または農業法人が農業経営の改善を図るための計画を作成し町が一定の基準に照らしてその計画の認定を行う。

<認定後>

認定を受けることで、誇りと意欲を持って農業経営の改善・発展に取り組む姿勢を内外にアピールし、経営者としての自覚を自ら高める。

※認定されると、経営等の助言システムはあるが、設備投資等への助成は無いようであった。

2. 農業について

○一戸当たりの耕作面積 1.5 haで経営としては小規模である。

○2000年は346戸 → 2018年は165戸に減少 高齢化の進展

概要

従って高齢農家は自家消費農家となる。

○他の振興作物 畜産農家の飼料作付け・馬鈴薯・かぼちゃ・ニンニク 4・トマト  
があり。

かぼちゃは、有名で1個1,500円~2,000円程度

1株に1個のかぼちゃで生育

○畜産については、15戸が100頭の雌牛を飼育し子牛を販売

最近の価格1頭100万円と高額となってきた。(以前は50万円程度)

◎認定農業者が圃場整備をすすめており、今後の経営の効率化と規模拡大をきたいしている。

3. 新規就農者について

○2019年度「今別町地域おこし協力隊・農業支援員」募集しているが応募が無い。

○漁業と畜産(イノシシ)及び狩猟を新規に行なう方が移住された。

イノシシ等は食肉会社に販売

4. 青年就農給付金交付について

○就農初期段階の青年就農者に対して経営開始型の青年就農給付金を給付する。

○独立・自営就農時の年齢が、原則45歳未満

○経営開始初年度は、給付期間1年につき1人あたり150万円を給付

経営開始2年目以降は、給付期間1年につき1人当たり350万円から前年の総所得(農業経営開始後の所得に限り、給付金を除く。)を減じた額に5分の3を乗じて得た額を給付。ただし、前年の総所得が100万円未満の場合は150万円を給付。

5. その他 漁業について

○過去には、ヤリイカやコウナゴが獲れたが、現在は獲れずサケの養殖を始めた。

○海藻類は昔から盛んである。

6. 課題

1) 圃場整備後の高収益野菜の作付けや管理方法

2) 後継者を含めた集落営農組織化

3) 農作物被害対策

サル(年50頭駆除)やイノシシ等の駆除対策

猟友会と年契約を実施(例:100万円/年で出来る範囲)

※青函トンネル工事が始まり、町内の農業・漁業者の多くがトンネル工事で働き、工事が終えてからは、元の職(農業・漁業)に戻るが少なかった。

トンネル工事は高収入。完成後加齢で高齢者となる。

5. 感想

1) やはり後継者不足は全国的な課題である。

2) 平野の様な耕作地が少ないことから、効率的な圃場整備が困難か。

6. 本市への参考点

1) 青年就農給付金交付制度

2) 効率化目的の圃場整備について助成金の検討が必要

添付書類

視察資料

視察状況写真

名刺



【2】青森県 つがる市

住 所	青森県つがる市柏稲森幾世 41
電 話	0173-25-3131
視察案件	つがる市立図書館について(イオン内)
期 日	2019年 6月 27日 (木) 13時 30分 ~14時 30分 まで
応 対 者	社会教育文化課 課長補佐 佐藤 公俊 様 図書館 山下 様 議会事務局 秋田 俊 様 主幹 野村 麻子 様
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	イオン内 図書館

概 要

**I. 市の概要**

1. 人口 33,300 人  
2005年2月：西津軽郡木造町、森田村、柏村、稲垣村、車力村の1町4村が合併
2. 面積 253km<sup>2</sup>
3. 産業 農業(米、リンゴ他)・漁業(なまこ)・観光(温泉)
4. 議員 18人

**II. 図書館(イオンモール内)**

1. 視察目的

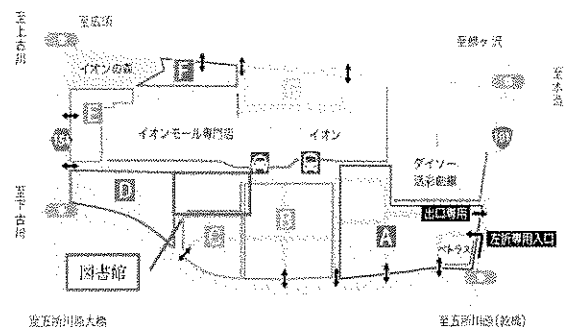
本市も将来的に図書館の建替え案(駅南へ)があることや、昨年、図書館の運営体制を変更したこと等から、現在流行しているショッピングモール内の図書館について研究した。

2. 図書館について

1) 経緯概略

- ① 合併後も市には図書館が無かった。
- ② 2014年4月 複合施設型の図書館計画 10億円・・・一時凍結
- ③ 2014年11月 T イオンモールむと TRC(図書館流通センター)が、図書館設置提案 (TRCは自治体で図書館を保持していない所は把握)
- ④ 2016年7月に開館される運びとなった。

2) 概要



概要

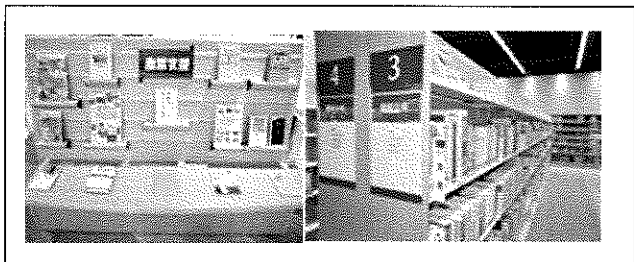
- ① 面積 1,606 m<sup>2</sup>
- ② 蔵書 約8万冊 (最大12万冊)
- ③ 開館時間 10時～20時  
休館日: 毎月最終月曜日 (特別整理期間: 年間5日間休館日 月末日)
- ④ 指定管理 TRC (㈱図書館流通センター) 5年間契約  
※TRC 売上高 45,239百万円 従業員数8,114名 (単体)
- ⑤ 初期投資
  - 設計 8百万円
  - 内装工事 104百万円
  - 什器備品 100百万円
  - 図書購入 198百万円 計410百万円
- ⑥ 運営(維持管理)
  - 指定管理費 50百万円/年 (蔵書購入費含む 5百万/年)  
職員数:8名
  - イオンモール賃貸 25百万円/年 15,600円/m<sup>2</sup>・年
- ⑦ 実績(2018年)・・・詳細は添付資料参照  
入館者数: 254,454人/年・・・出入口で自動カウント  
貸出数:43,340冊/年

お客ニーズ・流行など  
TCRに任せる

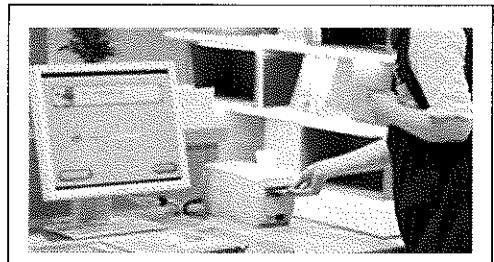
- ⑧ 特色 他
  - 回遊型レイアウト併設  
タリーズコーヒーの飲み物も持ち込み可能。  
居心地の良い空間がある。



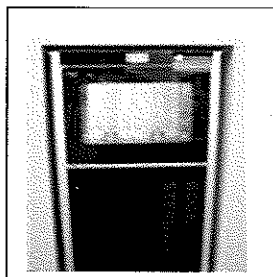
- つがる市の基幹産業の農業支援のため、農業関連資料を充実。  
就労支援資料も豊富。



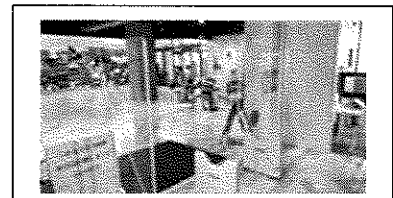
- 自動貸出機  
利用者自身で気軽に貸出処理ができる。本を置くだけで読み取り。  
全ての本にチップ内臓シール



- 書籍消毒機



- 出入口



3. 課題

- 1) 貸出数や入館者の増対策

4. 感想

- 1) 教育委員会の図書館の精通者の必要性か (TRC 任せの様)
- 2) 良好な空間であった。(本市はスペースからして詰めほうだい)
- 3) 買い物は複数人で出かける。買物興味ない場合は図書は最適である。
- 4) 新しい時代の流れの図書館システムが理解できた

5. 本市への参考点

- 1) 人口規模からして、これからは複合施設が好ましい。
- 2) PFI 等が好ましい。
- 3) 図書館の職員体制の整理必要 (多過ぎないか)

つがる市は電子・機械化等で効率化が図れているが (8 名)

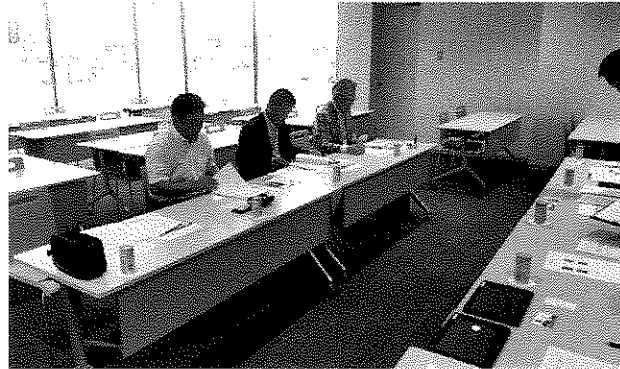
添付書類

視察資料

視察状況写真

名刺

視察状況写真



【3】北海道 木古内町

住 所	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町 218
電 話	01392-2-3131
視察案件	観光コンシェルジュの取り組みについて
期 日	2019年 6月28日(金) 10時30分～11時30分まで
応 対 者	議長 又地 信也 様 まちづくり新幹線課長 木村 春樹 様 議会事務局長 福田 伸一 様
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	道の駅 みそぎの郷きこない
概 要	<p><b>I. 市の概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人口 4,113人・・・トンネル工事中は18,000人</li> <li>2. 面積 222km<sup>2</sup></li> <li>3. 産業 漁業(ほたて・コウナゴ・ワカメ他)、農業(赤牛が有名)、畜産</li> <li>4. 議員 10人</li> </ol> <p><b>II. 観光コンシェルジュの取り組みについて</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視察目的 本市は従来から笠岡諸島を中心に観光事業を行っていることや、この度、日本遺産に認定された。 木古内町は新幹線駅を核とした駅周辺整備等で観光に力を入れ各種取り組みを行っていることや、近隣市町村と連携した観光取組みを行っていることから観光事業を研究した。</li> <li>2. 駅周辺整備と広域観光のとりくみ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道の駅の開設 駅前に道の駅を開設・・・事業費 4億円</li> <li>2) 駅前の区画整理・・・道にて整備・・・別添資料参照 駐車場は無料</li> <li>3) 観光客数 2015年度は 6万人/年 2016年度 15万人/年(新幹線開通) 2017年度 63万人/年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">従来の10倍</span> 2018年度 57万人/年</li> </ol> <p>【増加要因(9町では木古内町のみ新幹線駅)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光スポットの開発や現存施設整備</li> <li>○観光案内所の開設・・・多言語化対応を4か国語対応者採用等</li> <li>○宿泊施設を民間が新設・・・満杯時期もある。</li> <li>○近隣9町と食と観光連携(それぞれの町の観光スポットを集約したパンフレットや電子的情報発信や観光モデルコース(路線バス含む)</li> <li>◎<u>町民がおもてなしの心で対応</u></li> </ul> </li> </ol>



- 札幌・函館・青森・仙台・東京でプロモーションを実施
- 4) 道の駅の概要・・・観光交流センター

従来の感覚とは異なる

- 総合案内所(観光案内)・・・9町の案内も精通

**【観光コンシェルジュ】**

多言語化対応や専属に女性1人

インバウンド受入れ整備体制として外国人1人(4か国語対応者採用)

協力隊として採用・・・3年後については町が協力予定



- レンタカー店

- 専門レストラン・パン専門店

- 多目的ルーム

- 交流広場

- 物販コーナー・・・9町の特産品を販売

※開設約2年間で累計150万人達成(2018年10月)

※2019年2年連続 道の駅満足度総合1位

- イオンモール賃貸 25百万円/年 15,600円/㎡・年

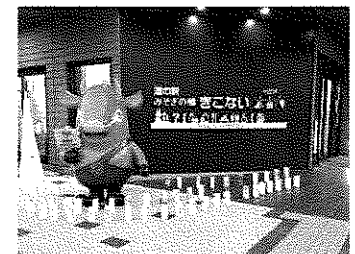
**3. 課題**

- 1) 広域観光の拠点強化
- 2) 経済波及効果
- 3) 観光客受入環境の整備
- 4) 観光の素材づくり

※函館港も10万トンの客船着岸整備中 この観光客の取り込み

**4. 感想**

- 1) 観光も広域連携が重要
- 2) なにごとにも徹底している様に伺えた。  
赤牛を多種多様な物に採用 右写真は郵便ポスト
- 3) 観光スポットは自ら作り出すもの



**5. 本市への参考点**

- 1) 駅・港・各耕地は住民のおもてなしの心(挨拶から・・・)が必要  
もてなしは、店や観光施設前から始めるべき。
- 2) 駅前に総合案内所が必要か(現在のバス切符売り場では不適切)
- 3) 速やかな多言語策が必要

概 要

添付書類

視察資料

視察状況写真

名刺

視察状況写真



新幹線 出口で職員が待っている。市への訪問者や団体等へ歓迎

